

使徒の働き 2章 14-24節 「主の霊が注がれる」

小池 宏明 牧師

ペンテコステ（聖霊降臨祭）を記念して礼拝をささげる。このペンテコステを出発点として、全世界にキリスト者の群れである教会が広がった。私たちは、この日を大いに喜び、お祝いしたい。

*ペンテコステのしるしとその意味

第一のしるしは、天から、激しい風が吹いてくるような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡ったことである。(2:2) これは、聖霊が天から下ってきたことを、はっきりと、誰にも分かるように示している。第二のしるしは、「炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった」ということである。(2:3) これは、私たちが話すべき福音の言葉は、聖霊なる神様が与えて下さることを示しているだろう。第三のしるしは、「皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」ということである。(2:4) これは、救い主イエス・キリストによってもたらされた福音が、国境を越え、文化を超えて、全世界で宣べ伝えられることを表している。こうして、世界中にキリストを中心とした神の家族が広がった。

*預言者ヨエルが取り次いだ主のことば

ペンテコステの日に使徒ペテロの説教で引用されたのは、旧約聖書ヨエル書のことばである。預言者ヨエルに主のことばが示されたきっかけは、大規模な自然災害が起きたことだった。いなごの大発生で、農作物が喰い荒らされて大きな被害が出た。この災害は、神のさばき（主の日）が近づいていることを明らかにした。しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。(2:21)

恐るべき終わりの日が来る前に、救い主、イエス・キリストに信頼して、主のお名前を呼び求めて、確かな救いを受け取ろう。また、私たちの愛する一人ひとりにも受け取って頂けるようによき証しを立てていきたい。御国に入るその日まで、地上の歩みを主イエス様が贈って下さった助け主である聖霊に導かれて、心燃やされて歩んで行こう。